

令和2年2月4日(木)

令和2年度 国立教育政策研究所
教育課程研究指定校事業研究協議会 (高等学校 国語)

実社会で必要な「話すこと・聞くこと」で育成する
言語能力を身に付けるために

北海道七飯高等学校

学校概要

- 昭和58年開校
- 全日制課程普通科 9クラス（1学年3クラス）
- 全校生徒 353名（R2.5.1現在）
- 進路状況（令和元年度卒業生 進学71名/就職40名）



北海道七飯高等学校

校訓・学校教育目標



- 学** 広い視野に立ち、自ら学ぶ意欲と態度を養う
- 鍛** 心身の練磨に努め、豊かな個性と情操を育てる
- 敬** 節度ある態度を身に付け、敬愛と協調の精神を培う



北海道七飯高等学校

育成をめざす資質・能力

- ア 客観的尺度に基づいて自己認識する力（自己理解）
- イ 基礎的な知識・学力（生きる力・教養力）
- ウ 主体的・計画的に取り組む力（主体性・分析力・計画力）
- エ 自分の考えを他者に伝える力（表現力・思考力）
- オ 他者と協働して課題解決する力（協働性・傾聴力）



<研究課題>

「話すこと・聞くこと」において、主として他者とのコミュニケーションの側面から思考力、判断力、表現力等の効果的な育成に関する学習・指導方法及び学習評価の工夫改善

<研究主題>

「実社会で必要な『話すこと・聞くこと』で育成する言語能力を身に付けるための学習指導及び学習評価の在り方に関する研究」



北海道七飯高等学校

研究の流れ（年度当初計画）

コロナ禍

- 現状把握と課題の検証（PDCAサイクル）
 - 本校生徒の課題の明確化
（基礎力診断テスト、アンケート等の活用）
- 研究推進委員会及び教科部会を中心とした研究の方向性等の教職員間での共有
- 指導・評価の工夫改善
 - 総合的な探究の時間、他教科等との関連、連携
生徒による自己評価、評価結果の生徒への還元等



北海道七飯高等学校

研究の流れ（コロナ禍で可能な内容への計画変更）

- (1) 生徒の実態把握 → アンケート等の実施・分析
- (2) 育成を目指す「話すこと・聞くこと」の資質・能力の設定
- (3) (2)の資質・能力の育成を意図した「話すこと・聞くこと」の単元を令和3年度の年間計画に配置

(※ 総合的な探究の時間との関連を意識した配置)



北海道七飯高等学校

(1) 生徒の実態把握（アンケートの実施・分析①）

① 「話すこと・聞くこと」への不安

- 授業（話し合い）で、あまり（全く）発言しない 45名（104名中）
- あまり（全く）発言しない理由（複数回答可の設問）
 - 間違えるのが恥ずかしいから 28名（45名中）
 - 話すことに緊張するから 25名
 - どのように話したらいいかわからないから 21名
 - 話し合うことの考えが思いつかないから 17名
 - 話さなくても誰かが答えてくれるから 17名

※ 話す内容・話し方への不安、話し合い・発表の場への不安



北海道七飯高等学校

(1) 生徒の実態把握（アンケートの実施・分析②）

② 「話すこと・聞くこと」への苦手意識

○ 自分のコミュニケーションの苦手、不得意（104名中）

- ・ 授業中に自分の意見や考えを発表する 50名
- ・ 話を聞く際に、説明に対する質問を考えながら聞く 43名
- ・ 発表をする際に、メモや原稿を用いて話す 43名
- ・ 聞いた指示や説明を、時間が経っても記憶しておく 42名
- ・ 話合いが本題からずれた際に、方向性を修正する 41名

※ 考えの形成、構造と内容の把握、正確に聞くことの苦手



北海道七飯高等学校

(1) 生徒の実態把握（アンケートの実施・分析③）

③ 「話すこと・聞くこと」についての意欲

○ コミュニケーションにおいてできるようになりたいこと（104名中）

- ・ 授業中にクラスやグループで話し合う 99名
- ・ 発表をする際に、言葉遣いに気をつけて話す 95名
- ・ 話し合いをする際、メンバーに伝わるように考えを整理して話す 95名
- ・ 話し合いをする際、メンバーの話を聞き、要点を理解する 94名
- ・ メンバーの考え方を尊重し、共感を得られるように話す 91名

※ 他者の話を理解し、自分の考えを相手に伝える力を身に付けたい



北海道七飯高等学校

(2) 育成を目指す「話すこと・聞くこと」の資質・能力

- ① 話す内容・話し方への不安、話し合い・発表の場への不安
- ② 考えの形成、構造と内容の把握、正確に聞くことの苦手
- ③ 他者の話を理解し、自分の考えを相手に伝える力を身に付けたい



「自ら思考し、表現する（話す・聞く）言語の力」の育成を目指す。



(2) 育成を目指す「話すこと・聞くこと」の資質・能力

① 話す内容・話し方への不安、話合い・発表の場への不安

→ 内容や表現の仕方について、自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てる（国語総合 A(1)エ）

② 考えの形成、構造と内容の把握、正確に聞くことの苦手

→ ・話題について様々な角度から検討して自分の意見をもつ
・目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞きとったりする
（国語総合 A(1)ア及びイ）

③ 他者の話を理解し、自分の考えを相手に伝える力を身に付けたい

→ 相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫すること（国語総合 A(1)ウ）



北海道七飯高等学校

(3) 「話すこと・聞くこと」の単元配置計画案

	国語総合	領域	○総合的な探究・□他教科など
4月 ～ 7月	○ 事物の説明や報告を集中して聞き取り必要に応じて想起する。 (現代の国語 A(1)エ)	聞くこと	○宿泊研修 ○自己理解を深める ○大学見学・講演
	○ メモや原稿を用意し、相手によくわかるように話す。 (現代の国語 A(1)ア)	話すこと	○ソーシャルスキルトレーニング (非言語・言語トレーニング) (上手な聞き方) (温かい声かけ)
※新課程移行後の想定指導事項として設定			



(3) 「話すこと・聞くこと」の単元配置計画案

	国語総合	領域	○総合的な探究・□他教科など
8月 ～ 12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手に伝わるように考えを整理し、表現や進行を工夫して話す。 (現代の国語 A(1)イ) ○ 話し合いの本題を的確に捕え、話題の方向性を修正する。 (現代の国語 A(1)オ) 	<p>話すこと</p> <p>話し合うこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ソーシャルスキルトレーニング (ロールプレイング) ○ まわしよみ新聞 ○ 地域課題研究 (ポスターセッション) □ 英語スピーチ
	※新課程移行後の想定指導事項として設定		



今年度の取組 #01

「早口言葉に挑戦し、発声や滑舌の方法を考えよう」 (国語総合 A(1)エ)

- (1) 歌舞伎役者・声優・アナウンサーなどの動画を見て、気付いたことを意見交換。
- (2) 動画などで滑舌や発声・呼吸法などを調べ、自分なりの「意識、作戦」を決めて練習。
- (3) 自撮り動画を取り、自己評価→改善点を考える。
- (4) チームで練習し、相互評価→改善点を考える。
- (5) チームで動画を撮影し、お互いの良さを交流する。

自己評価や相互評価を行い、
自分の話し方や言葉遣いに
役立てる。



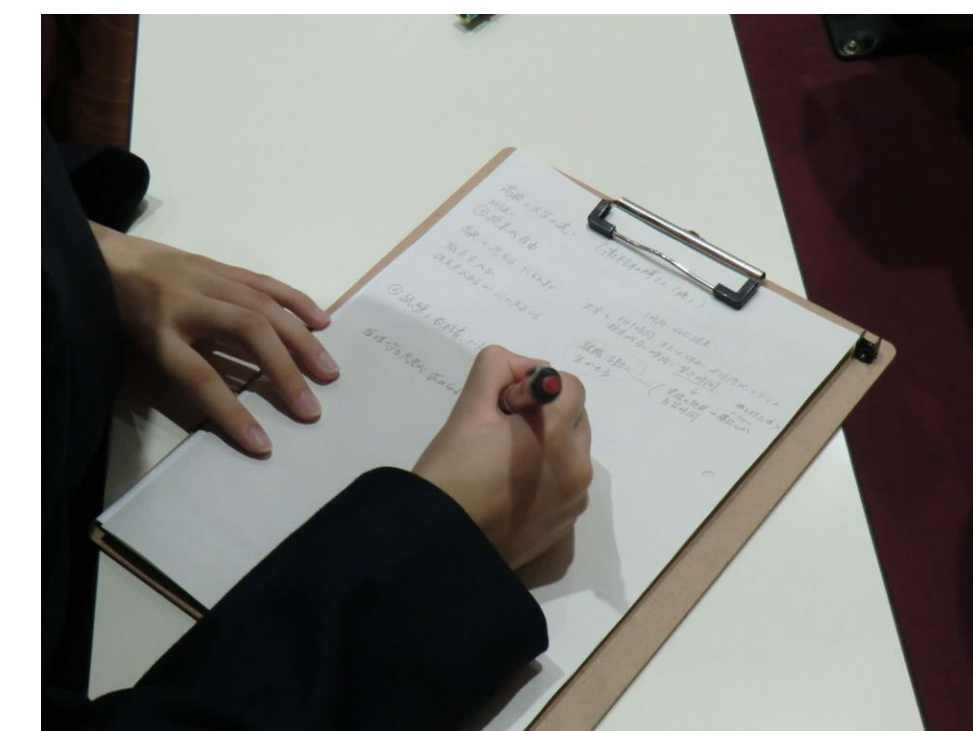
北海道七飯高等学校

今年度の取組 #02

「総合的な探究の時間」とコミュニケーションスキルのトレーニング

→ 今後、国語総合「話すこと・聞くこと」領域との関連を検討する

- (1) ソーシャルスキルトレーニング（北教大 本田真大 准教授監修）
- (2) まわしよみ新聞
- (3) 大学訪問や講演会
- (4) 地域課題研究（ポスターセッション）

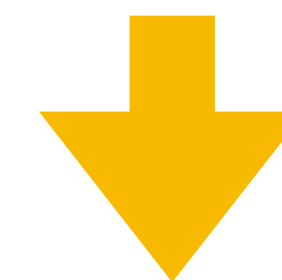


北海道七飯高等学校

今年度の取組 #03

パーテーションの導入

日常的な参加型・協働型授業の展開



「話すこと・聞くこと」への環境整備



北海道七飯高等学校

今年度の取組における課題

○ 話したり話し合ったりする言語活動を積極的に取り入れた授業を行ってきたが、「話すこと・聞くこと」の資質・能力を身に付けさせるための単元が設定できていなかった。

→ 「話すこと・聞くこと」の指導事項を実現するための単元を次年度の年間指導計画に組み入れる。

○ 「話すこと・聞くこと」についての評価規準（評価基準）を明確に示すことができていない。

→ 「話すこと・聞くこと」の単元における評価規準を設定し、単元の始めに生徒に示すなど、生徒が成長を実感できる評価の工夫を行う。



北海道七飯高等学校

令和3年度への見通しと今後の取組

- ・ 令和2年度における現状把握及び課題の検証
- ・ 「話すこと・聞くこと」の単元を明確に位置付けた年間指導計画の策定
- ・ 「話すこと・聞くこと」の単元で身に付けた資質・能力を総合的な探究の時間や他教科で活用する等、教科横断的な資質・能力の育成についての研究
- ・ 「話すこと・聞くこと」の資質・能力を身に付けさせる授業の工夫、改善
- ・ 「話すこと・聞くこと」の評価規準（基準）の設定及び評価方法の工夫・改善
- ・ 「話すこと・聞くこと」の授業における効果的なICTの活用についての研究
- ・ 研究内容・成果の総括的検証と発信



北海道七飯高等学校